

転換期のインターネット

理事長 椿 康和
(広島大学大学院社会科学研究所・教授)

私たちCSIは1993年3月に任意団体として発足し、1999年9月の法人化を経て今日まで、当地域における良好なインターネット接続環境の維持とネットワークコミュニティの健全な発展への貢献をミッションとして活動してきました。この間、通信事業者による高水準のネットワークサービスが提供されるようになり、一般社会への普及・啓発活動や技術者等の支援についても相応の成果を上げることができました。このため、本年5月26日に開催された第10回総会におきまして、本協議会のNPO法人としての活動を、2009年3月(平成20年度末)をもって終了することを提案し、ご承認いただきました。これまでのCSIの活動に賜りました皆様のご支援ご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

インターネットという言葉がほとんど認知されておらず、パソコン通信との違いから説き起こさざるを得なかったCSIの設立時と、インターネットがあらゆる社会経済活動の基盤となり、ポストインターネットとしての新世代ネットワークの議論が進み始めた現在とを比べると、まさに隔世の感があります。

巨大なサイバー空間に成長したインターネットは、今、大きな転換期を迎えようとしています。生活や社会のあらゆるところで、さまざまなモノと人、モノとモノを自由につなぎ、意識することなく情報のやりとりができるユビキタスネットワーク社会を実現するために、アドレス資源の枯渇が目前に迫ったIPv4から、IPv6へ限られた時間の中で円滑に移行することが求められています。

それと同時に、ここ数年の間に急激に悪化してきたインターネットの混雑への対応も急務です。インターネット上のトラフィックは年率40%(2年間で2倍)のハイペースで増加しており、その大きな要因として動画配信やファイル交換が挙げられています。あるISPの調査によれば、全ユーザの1%にすぎないP2Pユーザによって帯域全体の60%が占有されていました。一部のヘビーユーザの度を越した振る舞いがすべての利用者に悪影響を及ぼしているのが現実です。インターネットの混雑状況は、混雑の要因となった魅力的なコンテンツの提供事業者と絶え間ない通信能力の増強を求められている通信事業者との対立を生じさせています。わが国における、低廉な定額料金によって魅力的なコンテンツやサービスを堪能できる世界最先端のブロードバンド環境は、今後のユビキタス化の進展によって、通信需要に対して供給能力が追いつかなくなり、混雑を回避するための帯域の制御や、通信料金の大幅な値上げが行われる可能性も考えられます。



CSI役員・運営委員他
(2007年9月1日、CSI合宿、サンシャイン・サザン・セトにて)

CSI役員・運営委員

理事長 椿 康和
副理事長 相原 玲二、染岡 慎一
理事 西村 浩二、前田 香織、前田 真理、吉田 典可
監事 大場 充、片山 博昭
運営委員 相原 玲二(委員長)、前田 香織(副委員長)、今井 一雅、上野 優香、田島 浩一、
玉井 基宏、西村 浩二、野村 怜子、匹田 篤、前田 真理、松川 正義



(2007年12月1日現在)

インターネットは、すべてのユーザにとって適正な対価によって自由かつ公平に利用できるものでなければなりません。現在のように、ユーザ間で利用状況に極端な差があるにもかかわらず、同一の料金で利用内容も制限されていない状況は何らかの改善が必要です。また、インターネットに係るコストの負担が適切に行われるよう、コンテンツ提供事業者、通信事業者、ISP、そして利用者という、立場を異にする多くのステークホルダーの間で利害を調整するとともに、状況に適した新たな枠組みを作っていくことが求められています。とはいえ、巨大化し商業化したインターネットの現状を考えると、それは容易なことではないでしょう。

他方、各国の通信事業者は、既存の電話網や各種のネットワークから、インターネットと同じIP技術を用いた新たなネットワーク (NGN: 次世代ネットワーク) へ移行し、通信事業者による一元的な管理の下で、通信品質 (速度) が保証された安全で信頼性の高いサービスを提供しようとしています。わが国のNGNは、NTTを中心に光ファイバー網を基盤にしたQoS (Quality of Service) のあるブロードバンド環境の提供に特徴があり、2008年3月から一部の地域でサービスが開始され、2010年には全国の2,500万世帯が利用可能になる予定です。

NGNはインターネットと相互接続されます。光ファイバーやADSLなどの現在のアクセス線は順次NGNに移行しますが、その接続先について、品質保証のある管理されたネットワークであるNGNの範囲内に留まるか、品質は劣っても自由なネットワークであるインターネットに出るか、の選択はユーザの手に委ねられています。コンテンツとユーザがともにNGNに直接繋がっていれば、一定の対価により高品質の快適なサービスを受けることができるため、それを魅力と感じるユーザはNGNへシフトするでしょう。しかし、現段階ではNGNのサービス範囲は国内に限られており、海外のコンテンツやサービスとの接続はインターネットに頼らざるを得ません。このため、NGNがインターネットの混雑解消にどの程度の効果があるかは未知数ですが、NGNの登場はインターネットの運営にも少なくない影響を及ぼすものと思われます。

これからNGNとインターネットが並存する中で、新世代ネットワークの議論が進められていきます。CSIの設立から今日までのネットワーク環境の変化を考えれば、10年後の2010年代後半に登場すると思われる新世代ネットワークによって、現在の様々な課題が解決されるものと期待しています。

【特別寄稿】

広島県人、熱いですっ!

楽天株式会社 取締役常務執行役員 CPO
杉原 章 郎



私共、楽天株式会社は、本年、会社設立10周年を、無事迎えることができました。おかげさまで、順調に事業拡大と、サービスを充実させるための人員増強を進めており、これもひとえに、利用ユーザ様、ご来店者様、ご提携・ご協力賜っている各位各社様のおかげでございます。また、11月24日に「楽天テクノロジーカンファレンス2007」という、楽天グループの技術の取り組み状況を、ご関心をいただいているエンジニアの皆様にお披露目する会を、10周年を機に開催いたしました。三連休のど真ん中という、催事泣かせの日に行ったものの、600人強の濃いエンジニアの方々にお集まりいただきました。大変盛況な会となり、来年度から、さらに拡張をして、議論も深まる場に展開できればと考えております。

(ご挨拶はこの辺りにしておき、ここからざっくばらんな書き方でいきますが) ところで、人員が増強されて、社員が多くなってきたなあとの実感ゆえに、社内に広島県人はどのくらいいるものだろうか、いるならば広島の話を楽しみながら飲みたいものだと、社内の広島県人を募ったところ、意外にも、結構広島県人はいるもので、あっという間に20人以上が見つかった。

まず、やはり、カーブを観ながらビールを飲もうと、有志を募り、野球観戦に行った。神宮球場でヤクルトと対戦。1-0の惜敗だったが、相当盛り上がった。大きな声を張り上げるときには、広島弁は使いやすい。「わら、なんしょーんな〜、しゃっとせーや!しゃっとっ!」元気で通りの良い私の声が、神宮球場外野席で鳴り響くと同時に、連れて来た「東京生まれ東京育ち」「楽天イーグルスファン」の我が息子が、ぎょっとした目で「わし」を見ている。「パパ、何て言ってるの?」 ああ、君にもきちんと広島弁を教えないとね。英語の前に広島弁だね。

ところ変わって、2回目の飲み会。単なる飲み会だと、誰からも広島弁が出ない。落ち着いて話すと、私自身も、まったく広島弁が普通にしゃべれないことが判明。ひとり気を吐く幹事が、「わしだけ、広島弁しゃべりよーのう」「ほーじゃねえくらい、ゆって(言って)ーやー」と、頑張っってしゃべるが、誰も彼に続けない。これはいけないと、後日、実家に電話し、親と話をしてみた。なぜか自然に広島弁になる自分がいた。親としゃべると感覚は昔

の子供のままで、不思議なものである。何とか、広島弁をしゃべる機会を増やし、日頃から明らかに広島人というアイデンティティを確立したいものである。

さて、最後になるが、ついに我が社も、来春までに、広島にも営業拠点を開設することとなった。47都道府県全てに営業所の設置を行い、出店者さんと膝を突き合わせて、綿密なサポート活動を遂行し、日本中をエンパワーメントしたいという企業理念を追求するためである。待ってました！ 社内の広島県人が一気に盛り上がり、広島営業所開設のために尽力しますと、あれやこれやと世話を焼いてくれる。他の営業拠点に負けるわけにゃあいかんと、勝手に？盛り上がり、広島県人は広島のために熱いのである。

オフィスの場所についても、広島駅周辺、大手町周辺、紙屋町周辺、八丁堀周辺、どこにしようかと、正式な社内のオフィス構築担当者をそっちのけで、広島県人中心で、あれやこれやと喧々諤々している。また、広島営業所開所に先んじて、年明け早々に、広島県人会を広島で開催して、先行して盛り上げようと画策中のものである。

2月以降、広島にちょくちょく帰ることができる理由となり得るか、今から楽しみである。私が統括する開発系の拠点構築も並行して始まっており、広島にもサービス開発・運用の連携拠点が構築できるよう、進めたいものである。

杉原章郎(すぎはら あきお) プロフィール／楽天株式会社 取締役常務執行役員 CPO、1969年広島県生まれ、修道高校卒、慶応義塾大学総合政策学部卒、慶応義塾大学大学院政策メディア研究科修士課程修了

「IPv6 Rally! ～つかってみようIPv6～ (IPv6トライアル)」実施について

広島地域IPv6推進委員会 事務局 松川正義 (NTT西日本-中国)

広島地域IPv6推進委員会は、地域におけるIPv6の普及促進を行うための活動を続けています。IPv6 (Internet Protocol version 6、インターネット プロトコル バージョン6) とは、現在利用されているIPv4のさまざまな問題点を解決するために開発された、次世代のインターネット技術です。

現在、一般向けにIPv6に対応したパソコンの販売や、IPv6に関連する記事が雑誌などで取り上げられる機会が増えています。IPv6という言葉を知る機会が増えているためでしょうか、委員会が出展を行うイベント等でも、一般の人々からIPv6に関する質問を受ける機会が、これまでになく増えています。このように少しずつではありますが、一般の人々のIPv6への関心が高まっています。

しかしパソコンがIPv6に対応していても、現状ではインターネットの接続回線 (ISP) がIPv6に対応していないことが多く、一般の人々がIPv6を十分に活用することができない状況です。そこで委員会では、現在のIPv4インターネット上でIPv6を利用できる技術 (トンネル接続) を用いて、一般の人々にIPv6の接続性を提供するトライアルを実施することになりました。

本トライアルの参加者はIPv6インターネットに接続し、IPv6に対応したWebサイトのページを見つけ報告していただきます。報告いただいたWebサイトは、推進委員会のWebページで随時掲載します。そして参加者みんなでもっと多くのWebサイトを見つけて、情報共有を行います。それが「IPv6 Rally!」です。一番多く報告いただいた方には豪華賞品 (iPod nano) をプレゼントする予定です。

本トライアルはIPv6への理解を深めていただき、IPv6も今までのIPv4と同じようにインターネットが利用できることを実感していただくこと、また、実際にIPv6を利用していただく事で、新たなIPv6の活用方法等に関するアイデアや意見、感想等をいただくことを目的としています。

トライアル期間中はIPv6を活用いただくため、参加者のみが視聴できる講演会のインターネット中継等のイベントも開催予定です。また、トライアル終了後のアンケートにお答えいただいた方には、抽選で80名様にUSBメモリ (1GB) をプレゼントする予定です。ぜひ多くの方にご参加いただき、この機会にIPv6を実際に体験いただければと思います。

- 期間 2007年11月26日(月)～2008年2月22日(金)
- 申込方法 Web上 (<http://www.supercsi.jp/ipv6rally/>) で申込受付 ※先着100名様までご参加いただけます。

詳しくは広島地域IPv6推進委員会Webページ (<http://www.supercsi.jp/ipv6deploy/>) をご覧下さい。



CSI技術セミナー：CSIネットワークマスター虎の穴について

セミナー実行委員会委員長 松川正義 (NTT西日本-中国)

多くの方々のご協力のもと、本年度は5回のセミナーを実施することができました。レポートでご参加いただける方も回を重ねるごとに増えており、セミナー開催が定着してきているのではないかと思います。技術者育成を目的としているセミナーが、少しでも地域のお役に立てれば幸いです。

来年度も引き続きセミナーを開催する予定ですので、ぜひ今まで参加されたことがない方も、お気軽にご参加いただければと思います。

2007年 4月 9日(月)	CSIネットワークマスター虎の穴 第8回 ～Web2.0マスター編～
2007年 6月23日(土)	CSIネットワークマスター虎の穴 市民公開講座 in 高知 ～次世代インターネット(IPv6)が拓く新しい世界～
2007年 7月26日(木)	CSIネットワークマスター虎の穴 第9回 ～情報セキュリティマスター編 情報セキュリティの最新動向を知る～
2007年 9月11日(火)	CSIネットワークマスター虎の穴 第10回 ～ネットワークトラブルシューティングマスター編～
2007年12月15日(土)	CSIネットワークマスター虎の穴 市民公開講座 ～携帯とネットワークの美味しい関係～

(<http://www.csi.ad.jp/seminar/>)

事務局だより

CSI事務局長 染岡慎一 (安田女子大学)

本年5月の第10回総会におきまして可決されたとおり、CSIは特定非営利活動法人としての活動を平成20年度末に終了する予定で、SuperCSI運用連絡会の立ち上げ等様々な準備を始めております。

事務局では、任意団体当時からの膨大な資料の整理を進めており、先日、CSIが任意団体当時(1993年)から開催してきたシンポジウム・フォーラム・セミナーの全講演資料等を5分冊に製本し、広島県立図書館、広島市立中央図書館、安田女子大学図書館に寄贈いたしました。インターネット黎明期からの詳細な資料をご覧いただけます。

さらに、これからのCSIの活動予定について簡単にご紹介いたします。団体会員と賛助会員については既に実施済みですが、個人会員を対象に、来年度の会員資格継続に関するアンケート調査を実施します。来年度につきましては、CSIセミナー(3回)をすべて市民公開講座形式で実施するとともに、活動の締めくくりとして、秋頃を目途に記念シンポジウムを開催し、これまでご支援いただきました皆様への感謝の意を表したいと考えております。

CSI会員紹介 (2007年12月1日現在)

団体会員 (17組織)*50音順 <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#dantai>

学校法人 広島国際学院、学校法人 高知工科大学、学校法人 福山大学、株式会社 ネットスプリング、株式会社 広島市産業情報サービス、呉大学、高知工業高等専門学校、高知女子大学、(財)放射線影響研究所、ネットワン・システムズ株式会社、比治山大学、広島商船高等専門学校(マルチメディア時代における教育研究会)、広島市立大学、広島大学、福山平成大学、安田女子大学、弓削商船高等専門学校

賛助会員 (10組織)*50音順 <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#sanjo>

株式会社イーサイド、株式会社内田洋行、株式会社NTT西日本-中国、株式会社ジャストシステム、株式会社日立製作所 中国支社、株式会社ミウラ、総務省 中国総合通信局、中国電力株式会社、西日本電信電話株式会社 広島支店、日商エレクトロニクス株式会社 中国支店

個人正会員 (50名) <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#kojin>

編集後記

NPO法人のCSIが来年度末で幕を閉じることになりました。私達CSI役員・運営委員は、中国・四国地区におけるインターネットの出発点を切り拓き、パイオニアとして大変幸せな時代に活動を続けていくことができました。CSIの広報誌であるFrom:CSIはこの第16号で終わりとなりますが、インターネット・ディスクを駆使して第1号から編集を携わってきたものにとっては大変感慨が深いものがあります。SuperCSI運用連絡会が立ち上がり次世代へバトンタッチすることになりますが、From:CSIで刻んできたCSIの歴史は私達の大きな財産として残していきたいものです。(KI)



2007年12月7日 広報部会・広報誌編集担当 今井一雅、上野優香、野村怜子